

第2回噴火湾ホタテガイ情報(2013年) 発行日：平成25年4月26日

発行：函館水産試験場・栽培水産試験場・釧路水産試験場、協力：胆振・渡島北部・渡島中部地区水産技術普及指導所

湾内水深 10m の水温は 4.5～5.0℃と変化が小さく、昨年同時期と同様の状況です。例年、湾口部に形成される水温・塩分フロントはまだ形成されておらず、ラーバは流出しやすい状況です。ラーバは 130～140 μm と小型で、最大 254 個/トッ、平均 63 個/トッで、昨年(最大 828 個/トッ、平均 112 個/トッ)より、やや少ない状況です。

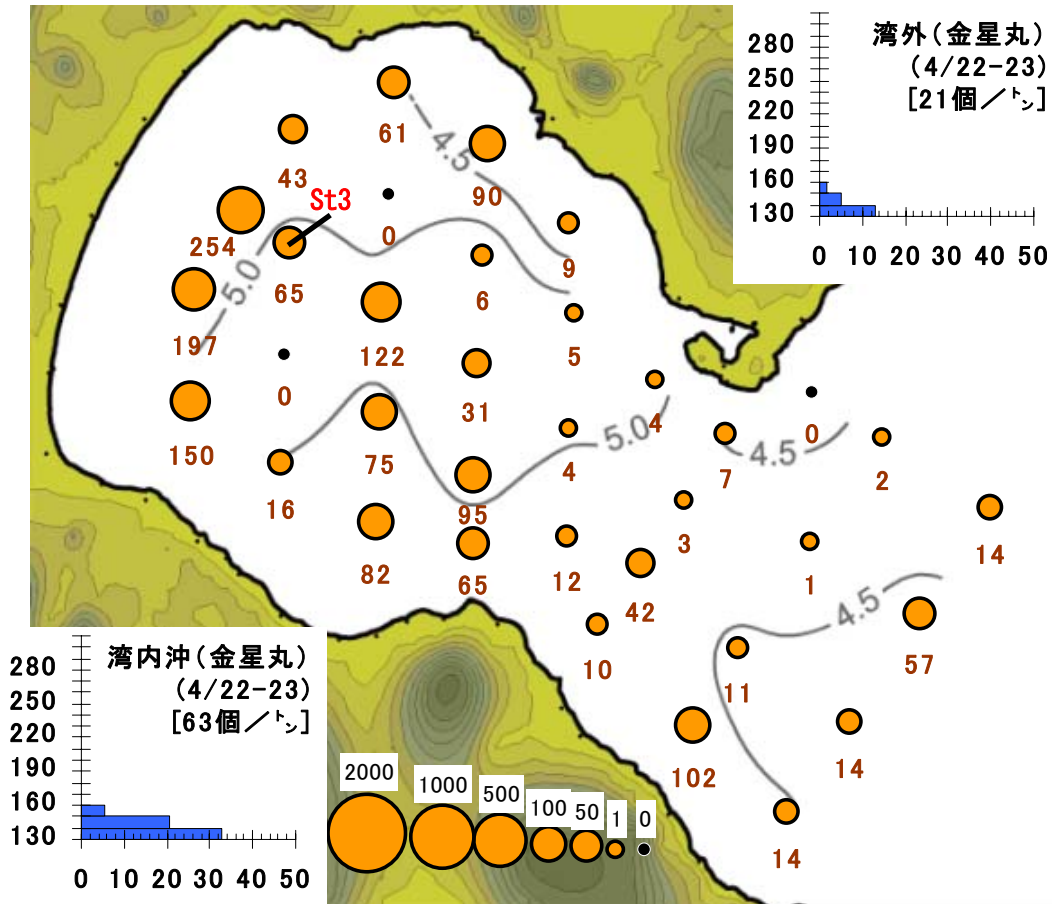


図1. ホタテガイラーバの分布状況(2013年4月22～23日)、丸の大きさと下部の添付数字はラーバ密度(個/トッ)、灰色曲線と数字は深度10mにおける等水温線と水温(°C)。

【概要】 4月22～23日に、函館水産試験場の試験調査船金星丸により、噴火湾のラーバ及び環境調査を行いました。深度10mの水温が4.5～5.0℃と比較的高い八雲町内浦～長万部町国縫沖合に比較的高密度のラーバ(150～254個/トッ)が観察されました。水温の比較的低い胆振地区沿岸のラーバ密度は低い(4～90個/トッ)状況です。ラーバの殻長は140 μm以下で、まだ小さいです。

昨年の同時期には湾口を横断する方向に水温・塩分の等値線(水温塩分フロント)が形成されておりラーバは流出しにくい状況でした【昨年の第2回ホタテガイ情報(2012年)を参照してください】。しかし、今年は、今のところ湾口を横断する水温塩分フロントは形成されておらず、ラーバが流出しやすい状況にあります。今後、湾内の水温上昇と雪解け水による塩分低下で湾口に水温塩分フロントが形成され、ラーバが流出しにくい状況になると期待されます。

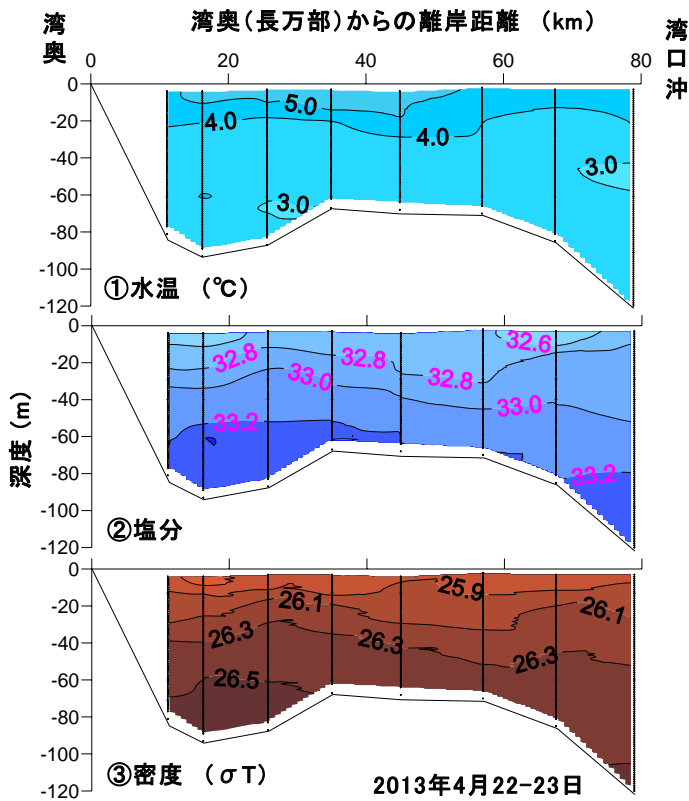
各地区の水産技術普及指導所の「ホタテガイ採苗情報」では、胆振・渡島の両地区で一部の貝に生殖巣指数の低下が報告されており、産卵が始まっているようです。

今後、水温の上昇とともに、ラーバが増えていくと考えられます。各地区水産技術普及指導所の採苗情報を参考にして、採苗作業の準備をしてください。

次回の全湾のラーバ及び環境調査は、連休明けの5月7～8日に、函館水試金星丸で実施する予定です。

(連絡先：函館水産試験場 馬場・金森・佐藤 TEL:0138-57-6074)

この情報は函館水試のホームページからもご覧いただけます。<http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/hakodate/>



【環境情報】

湾内 25m 以浅の水温は 4.0~5.0°C で (図 2)、産卵の目安となる 5°C 以上の水塊は、今後、増加していくと考えられます。

最深地点の水温は表層から 20m 以浅でやや高く 4.0~5.0°C、20m 以深では 3.0~4.0°C です (図 3)。塩分は表層で 32.5 とやや低く、水深 60m の 33.4 まで徐々に上昇しています。この水深 60m 前後で溶存酸素が大きく変化する事から、60m 以浅の水は湾外から流入した沿岸親潮で、60m 以深の水は秋から冬に湾内に滞留していた冬季噴火湾水と考えられます。溶存酸素は最深部でも 5.5mL/L (飽和度 73.8%) と十分な濃度があります (貧酸素の目安は 2~3mL/L)。

図 2. 噴火湾縦断面の環境変量分布

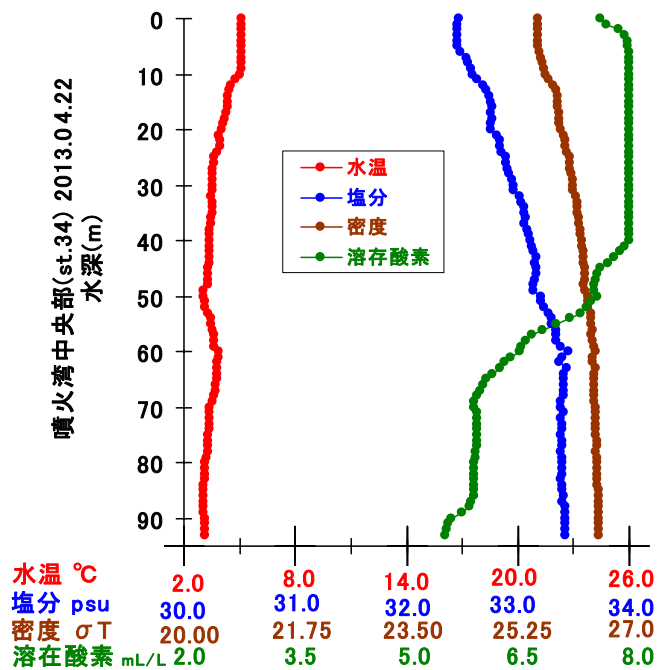


図 3. 最深地点 (st34) における水温・塩分・密度・溶存酸素の鉛直分布